

会議名	令和5年度坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議
開催日時	令和5年10月24日(火) 午前10時～
開催場所	坂出市役所本庁舎 2階大会議室
出席委員	長谷川 修一、國時 忠能、中井 今日子、多田 光宏、中橋 恵美子、 橋崎 正伸、林 陽子

会議の経過および発言要旨

1. 開会

2. 議題

- (1) デジタル田園都市国家構想交付金事業等実施報告について
- (2) 第2期坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略のKPI達成状況について
- (3) 第2期坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略の一部改訂について
- (4) 第3期坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定に向けた意見交換について

●会長

それでは、議題(1) デジタル田園都市国家構想交付金事業等実施報告について、事務局より説明願いたい。

○事務局

(資料1-1、1-2、1-3により説明)

●会長

ただいまの説明について、ご意見・ご質問があればお願いしたいが、委員各位が考えている間に私から何点かお聞きしたい。

デジタル田園都市国家構想交付金を活用した事業で、さかいで未来会議を10回ほど開催したと報告があった。以前、政策部長が政策課長だった時に、若い人の意見を聞く必要がある

ということで、市内4校の高校生と若手職員、香川大学のゼミ生に集まっていたのだと思う。その中で、駅前に高校生の居場所が欲しいという提案があり、それがきっかけで未来会議につながり、大変うれしく思う。

そういった提案も受けながら、坂出駅周辺整備基本構想などの策定に尽力されてきたわけだが、今回の未来会議で高校生からこういった意見が出たか教えていただきたい。

○公民連携・DX推進課

まず、さかいで未来会議については、香川大学沙弥島プロジェクトの学生9名と市内4校の高校生17名、市の若手職員4名でワークショップを開催した。10回のワークショップの中で、駅前複合施設と緩衝緑地という課題をもって、先進地や緩衝緑地を視察し、議論を深めてきた。

複合施設という課題で出た意見としては、学習施設や図書館、スポーツ施設、カラオケ、ゲームセンター、Wi-Fi完備の休憩スペース等、放課後や週末の若者の居場所を求める声が多かった。また、明るく開けた雰囲気にする、中庭を設ける、植物やベンチを設置するなど、人が集うことができる空間の提案をいただいた。

緩衝緑地については、ワークショップの開催やイルミネーション、ライトアップなどイベントを通して多くの人に訪れてもらうという提案や遊具の設置、ドッグランを設けるなど子供やペットと時間を過ごすことができる場所を求める意見が多くあった。

●会長

そういった提案が坂出駅周辺の整備計画にも反映され、若者の居場所づくりということに結びついたのかなとうれしく思った。こういった会議を今後も継続していただけたらと思う。

●委員

関連するが、高校生の意見を具現化するというのは非常に大事だと思う。

私の息子も高校を卒業したが、坂出の高校に行かずに高松の高校に通っていた。なぜそうなったかを保護者の視点で考察すると、坂出の高校の人气がなくなってきている。駅から近く、通学も便利であるにもかかわらず人气がないために学校のレベルも低下し、募集人員も応募人員も減少し、さらにレベルが下がることにもなる。また、遊ぶところや学習するところもないといった周辺環境も要因になっているのではないかと思う。

息子二人のうち一人は坂出の高校に行ったが、一人は高松の高校に行った。本当はどちら

も坂出の高校に行ってほしかったが、本人の意思なので止められないといったところもある。坂出の高校が選ばれないといったことも、坂出の魅力低下の要因となっているので、ぜひとも高校生の意見を大事にして具現化してほしい。

●委員

さかいで未来会議の進捗については広報紙に掲載されていた。未来会議の記事だけをアーカイブとして残し、そこでの意見がこういうかたちで具現化されたなど、フィードバックできればいいと思う。

未来会議も再生会議も広報紙面上でコンパクトにまとめられていたが、出された意見の内容などの詳細は掲載されていなかったように思う。

○公民連携・DX推進課

広報紙については、まちいろというサイトで閲覧可能となっている。

●委員

そこで未来会議と検索するとバックナンバーが閲覧できるのか。

○公民連携・DX推進課

検索はできないかもしれないが、月ごとの広報が掲載されている。未来会議の記事については、各月の広報の中から探してもらうしかない。

●委員

会議の中で重要政策に位置付けられているものに関しては、該当部分のみ抽出し、アーカイブしておくと思えばいいと思うし、参加いただいた高校にとってモチベーションの向上につながると思うので、無理のない範囲で検討いただければと思う。

●会長

参加された学生も、自分たちの意見がその後どうなったかを知ることができれば、市の課題を自分事として受け止めることができると思うので、工夫していただけたらと思う。

●委員

恥ずかしながら、高校生を対象としてこういった取り組みをしているということを始め
て知った。中学生や小学生の意見を聞く機会はないのか。

○公民連携・DX推進課

ワークショップ以外に市民意向調査を行っている。その際に、子育て世代のみなさまに
もアンケートを取っており、そのほかに高校生や市外居住で市内通勤者にもアンケートを
取った。

●委員

スマホで回答した記憶がある。その結果がどうだったのかが分からないというか、広報
紙を取っていない世帯も多い。学校にもフィードバックをいただけたらありがたい。

●委員

Bizについて、前に進めなかったところをどうにかして進めるようにしたら効果が出て
くると思う。

また、昔は塩田だったため鉄の工場もあれば木の工場もあったはずで、そういった仕事
を先代はしていたという家庭もあるはず。それが受け入れられなくなったのであれば職と
して存在しないはずで、そういったわけでもない。頑張れば職としてやっていけると思
うのでそういったところを支援すべきではないかと思う。

○建設経済部長

Bizについては、行政とBizとの連携がうまくいっていなかった点を反省している。

事業者や創業を希望している方からBizに相談があったとしても、行政が抱えている地
域課題を市とBizで調整できていなかった。Bizはそういった繋ぎ役が担える立場であるの
に、情報が下りていなかったばかりに担えていなかったと思う。

現在は、市のほうからBizにも相談できる体制を整えようとしている。そうすることで、
相談に来られた事業者とのマッチングができ、地域課題が解決できないかといった流れづ
くりを試みようとしている。

Bizは地域の方とのネットワークや行政とのマッチングができる場所だと考えているの
で、そういった取り組みを進めていきたい。

●委員

Bizで相談した二代目三代目の事業者さんからすごくよかったという意見を聞いている。社会課題をビジネスで解決する、いわゆるソーシャルビジネスというものだが、なにをもってソーシャルビジネスとするかというカウントの仕方がさまざまである。雇用の受け皿を増やすといったことも社会課題なので、創業してくれるとか代が継がれて事業運営できることも社会課題の解決につながっていると思う。なにをもってカウントするかをもう少し幅広くとらえてもいいのかなと思う。

デジタル田園都市国家構想交付金と言いながら、どういったところがデジタルなのかが見えにくいと思う。新聞報道でもいろいろなところと協定を結んだという記事が目につき、坂出は頑張っていると感じる。一方で善通寺も市長が変わり同じように露出が増えてきている。三豊市は継続的に市民との良好な関係が見える。地元メディアでは自治体争いが行われていると感じる。どこも同じような打ち出し方をしているので、坂出が特化している部分を打ち出す必要がある。坂出は立地上、岡山を商圈に取り込みやすいというところを考慮すると、そういったところも包括して集中的に発信するのもいいのかなと思う。

最近の若い人たちの傾向として、ゴールを見せるのではなくプロセスを上手に見せることで心をつかんでいければと思う。

○政策部長

委員ご指摘のとおりだと思う。

今取り組んでいることも即効性があるものと、地道に継続して初めて完成するものもある。即効性があるものについては記者発表しながら進めていく。継続して取り組むことによって完成するものについては、なかなか見えにくい部分ではあると思う。先ほどの未来会議についても同様だが、情報を提供しながら市が進めている施策を知っていただきたい。

●委員

Bizについては、坂出商工会議所との連携も行っているのか。

○産業観光課

各種会合への出席や情報収集等の連携は行っている。

●委員

同じような課題を抱えている組織なので、連携できているのであれば意見交換しながら課題解決に当たっていけると思う。

先ほどは高校生や学生の意見を参考にということだったが、商工会議所の青年部もいろんなアイデアを持たれて活動されているので、そういったところからも若い人の意見を取り入れてもらって、より良い方向に行けばいいのかなと思っている。

●会長

それでは、「Bizを中心とした地域内チャレンジ促進事業」「Digi田さかいで再生プロジェクト」「まち・ひと・しごと創生寄附活用事業」については、有効であったと判断してよろしいか。

●全委員

異議なし

●会長

それでは有効であったと判断する。

それぞれの事業について評価すべき点、改善すべき点等さまざまな意見があったが付け加えることはないか。

●全委員

なし

●会長

次に、議題（2）第2期坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略のKPI達成状況について説明願う。

○事務局

(資料2により説明)

●会長

ただいまの説明について、ご意見・ご質問があればお願いしたい。

●委員

総じてKPIを数字で測ることが妥当なのかと迷うものばかりだったが、例えばP10のすべての人が活躍できる環境の整備の項目で日本語教室の開催がある。おそらく大橋図書館で市が主催している日本語教室に付随する数字と思うが、そういった認識で間違いはないか。

○秘書広報課

その通り。

●委員

知り合いがかかわっているので以前から存じ上げていた。

坂出、宇多津、丸亀、多度津は外国人就労者がとても多いエリアということはご承知のとおりで、日本語教室の当事者が苦慮しているというのを耳にしている。例えば、市が主導してそういった教室を設けてくれていることは非常にありがたいし、費用も市が出してくれているということも非常に手厚いと思うが、学習する側、申し込んでくる側のターゲットが多種多様で、老若男女だれでも日本語を学びたい方は参加してくださいといったかたちなので、学習目的がまちまち、レベルがまちまちとなっている。また、ボランティアもある程度の専門知識とスキルが必要となり、ほとんどの人が有資格者である。一回500円が支給されていると聞くが、専門知識が必要で、レベルを引き上げようとすればするほど、対象者にばらつきがあることがもどかしいと聞く。いつまでも厚意に甘えるのではなく、教室の在り方についてボランティアの方と相談してほしいという意見があった。

そもそもKPIとして、参加者が増えれば目的達成と言えるのかということではなく、その後のフォローが大事で、対象者が子どもであれば教育委員会との連携や市でダメなら県との連携も必要かなと思う。現場でかかわっている方の困りごとを共有できる場を市の担当部署と持ちたいという意見があったのでお伝えしておく。

坂出は重要港湾を持っていて、外国船の入出港もあるし、外国人労働者の力添えがないと成り立たないといった認識もあるので、日本語教育は必須だと思う。いろんなところで外国人を住みやすくする施策が求められていると思うし、それと同時に市民にも自覚してもらうことが重要。広報紙でもやさしい日本語のコーナーが設けられ、今年度はスペース

も拡大して掲載いただいているのは非常にいいことだと思うが、それ自体市民に認知されていないかもしれないし、市民もそういった学習が必要であるといったことを啓蒙すべき。現在も十分周知等していただいているとは思いますが、このままではますます乖離というか、必要性ばかりが重要視され、市民がそれについていけないというのが現状だと思うので、外国人にとって坂出が一番住みやすいまちだと、モデルケースになるような施策を現場のボランティアと相談する中で模索してはどうか。一朝一夕にいかないことは十分承知しているが、一考していただけないか。

○秘書広報課

日本語教室の現状として、委員ご指摘のとおり、老若男女誰もが参加できるようになっている。また、国籍もさまざまであり、英語圏の方だけでなく、フィリピンやベトナムなどいろんな国の方が参加している。日本語ボランティアの方々については、令和5年度は25名で構成されており、皆様のご厚意で成り立っている。

今後、外国人労働者の増加やその家族が市内に住むとなるとお子様が不自由なく学校に通えるように、教育委員会と連携することも当然に必要なことだと考えている。

本市としても良案について模索中であるので、香川県で一番になれるように頑張りたいと考えている。

●委員

ふるさと納税について、高松に聞くとみかんがよく選ばれると言っていた。みかんなら坂出だろうと思ったが、他で買うより安くて良いものが届くようで、そのあたりも研究して寄附金額の設定をする必要があるのかなと思った。

また、毎回発言させていただいているが、女性活躍の部分で審議会委員の女性登用が伸びていない部分のテコ入れをお願いしたい。

加えて、女性管理職の登用も係長級以上となっているが、他市町は課長級以下管理職と見せているので、その見せ方がごまかしになっているのかなと感じた。

そういった中で、現在坂出市はいろんな企業や団体と協定を結んでいるが、例えばゼロカーボンプロジェクトのリーダーに女性を推薦して、メディアに露出するときも女性が必ず出ている、坂出は女性が元気だなと思わせるような見せ方をするのはどうか。どこの市町でも一緒だが、どうしても管理職となると男性が多いので、少しテコ入れして見せ方を工夫することも大事なのではないかと思った。

●委員

補助事業については、ホームページで見つけにくい。先ほども指摘があったが、ワンクリックで補助の一覧が見られるような工夫が必要と感じる。今のままではまるで補助金を使ってほしくないような印象を持ってしまう。

○秘書広報課

検索していただくと見つけたい補助事業がすぐ見つかるようにはなっている。しかしながら、関連した広報記事が出てくるようなものではないので、再考の必要があるのかなと思う。

●委員

企業立地助成金について、銀行にも新規創業の相談や特許取得の相談がある。そういったものへの補助があるということも今知ったので、もっと周知していただければ、銀行としてもお客様へ案内ができる。市内銀行協会の会合もあるので、そこで案内いただければ広まりやすく、実績にもつながるかなと感じた。

○産業観光課

機会を捉えて、積極的に事業の発信に努めていきたい。

●会長

次、議題（3）第2期坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略の一部改訂について説明願う。

○事務局

(資料3により説明)

●会長

ただいまの説明について、ご意見・ご質問があればお願いしたい。

●全委員

なし

●会長

それではお諮りする。坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂について、資料3のとおり了承することとしてよろしいか。

●全委員

異議なし。

●会長

ご異議なしと認め、了承することとする。

続いて、議題（4）第3期坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定に向けた意見交換について、本日ご審議いただきました第2期坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略の対象期間は、令和2年度から令和6年度までの5年間となっており、来年度は第2期の検証を行うとともに、第3期の策定作業を行うことを予定している。

そのため、本日は各委員の皆様これまでの会議の経過等を踏まえて、第3期の策定に向けた課題等についてご意見をお聞きしたいと考え、意見交換の場を設けさせていただいた。

ご意見がある委員の方はいらっしゃいますか。

●委員

全国区のテレビで本市の商店街が、全国8位のシャッター街ということでピックアップされた。数年前からニュースで取り上げられていたのも見てきたが、非常に恥ずかしい思いをした。昔は、土曜デーも肩がぶつかるくらい人が集まり、大変にぎわっていたが、非常事態に陥っている。

何が言いたいかというと、瀬戸大橋ができて、人の流れ、物の流れが大きく変わり、中国地方側に人も経済も流出するストロー現象が起こったと分析している。

私の職場は港なので、港中心に言わせてもらおうと、対岸の水島港に仕事も人も奪われ、疲弊している状況がある中で2019年にニューポートプランが策定された。とは言え、あくまでプランであって、絵に描いた餅にならにようにしてほしいと思いながら、具体的なことは進んでいない状況である。次回の港湾審議会でも議題に上がっているが、実現には十数年かかると思われる。十数年かかるとどうなるかというと、人も物もすべてなくなってしまっていると思う。ニューポートプランは国も巻き込んでハード整備ができ、まちを活

性化させる唯一の方策だと思う。

個人の立場上、香川県に要請することもあるが、北インターのフルインターが実現される前に有志で集まり実現に向け議論したが、知事も県も何を言うかという、地元でやってくれと。香川県にとって、坂出は地元ではないのかと思いながら、歯を食いしばって意地になってやってきた。実現するようになって知事も県も手柄だけ取っていく。

坂出は学校も総合病院もたくさんあり、駅も港も高速道路も整備されており非常にポテンシャルが高い。人や物が寄ってくる環境は整っていると思う。北インターのフルインター化及びニューポートプランの実現がラストチャンスだと思っている。坂出が突出した物流戦略を取ることで雇用創出にもつながると考える。香川県の港湾に魅力がないというのは、シャッター街にも影響していると思う。

まちのにぎわいをつくるのであれば、市長が打ち出している駅前の再開発、ホテルをつくって人を呼び込む、人が集まれば企業も張り付く、企業が張り付くためには物流を整備するという含めて、尽力していただきたい。

●委員

策定に向けた会議体の持ち方については、市長が新しくなったということもあり、一新するのか。それとも現状と同じような持ち方でいくのか。私は高松の総合戦略会議の委員もさせてもらっているが、委員の数が坂出の3倍くらいいるのと、グループで別れて、深い議論をしている。坂出にとっても変革のタイミングだと思うので、委員会別で若い人の意見を聞くのもいいかなと思う。

●委員

坂出がすこしでもいい方向に向かえばと思う。最後に意見が出た人や物の流れを最大限に生かしてほしい。ボトルネックの部分の解決策を盛り込むべき。坂出に興味はあるが不便だから住まないという声も聞く。興味を興味で終わらせないように尽力してほしい。

●委員

私は京都から移住してきたが、交通の便は非常によく、京都の実家まで2時間で帰れる。どうして高松や丸亀に住むのかと思うぐらい、本当に便利だと思う。岡山にも高松にも丸亀にもアクセスしやすく、駅の乗降者数も四国で上位にあるということで、住みやすいまちだと思う。5年以内に東部小学校が小中一貫校になるという話もあるし、10年以内には

公立の学校はすべて小中一貫になるという計画もあるので、どんどん住みやすくなるというのをどうやってアピールするかだと思う。東部小学校に関しては駅にも近いので、駅前や商店街を巻き込んだ仕掛けができればと思う。小学生の娘ですら、買い物となると綾川のイオンか宇多津のイオンを望む。そういったものが坂出駅前にできればと思う。

●委員

審議会の持ち方について、分科会形式で行うことに賛成。分科会で積極的な意見が交換されることで、会全体も充実すると思う。ご一考いただければ幸い。

●委員

多くの人から意見をいただける体制もいいと思う。商工会や青年部など、いろんなところの意見を出し合える場を設けてもいいのかなと思う。職業柄、新規出店や企業立地のお手伝いをしやすい立場にあるが、補助金などはもっと宣伝すべき。

●会長

第二期の施策をすべて実現させても坂出の人口は減っていく。そもそも日本の人口がますます減っていき、それは止められない。本戦略には、有効でない施策も混じっている。人口減少に歯止めをかけるには何に優先して取り組むべきかを検証して、ターゲットを絞り込まないといけない。それでも人口は減っていく。その中であつてもなんとか活力のあるまちをつくっていくということで、第三期の戦略策定に向けて、全力で取り組まなければならないと思う。職員、市民が連携し、何をやらなければならないかということを絞り込んでいく時期だと思う。

6. 閉会

以上で、坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議を終了する。